



様式第1号

令和4年10月31日

真庭市議会
議長 小田 康文 殿



真庭市議会議員 吉原 啓介



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

- 1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動
- 2 訪 問 先
 - ①農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）
 - ②議員会館（小野田紀美参議院議員）
 - ③農林水産省
- 3 内 容
 - ①「新しい米」に関するヒアリング
 - ②国産インディカ米に関するディスカッション
 - ③インディカ米の国産化プロジェクトチームとの
打ち合わせ（真庭市の生産者との連携等）
- 4 行 程 別紙のとおり
- 5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

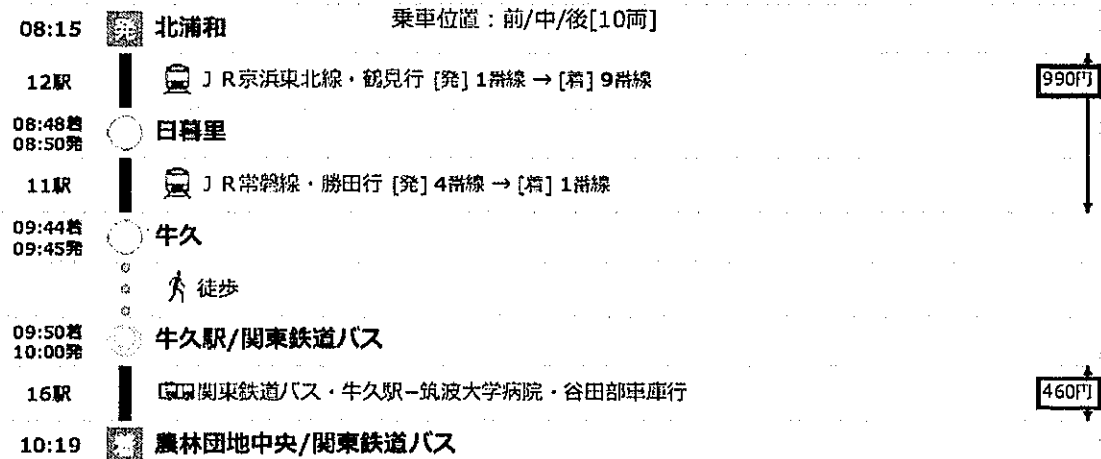
行程表

令和4年11月7日	移動日	9:45	岡山空港（※真庭→空港は自家用車）	ANA	
		11:00	羽田空港		
		11:29	羽田空港第2ターミナル	東京モノレール	
		11:48 11:58	浜松町	JR	
		12:40	北浦和		
（午後、真庭応援広告及びイタリア交流会にかかるオンライン打ち合わせ）					
令和4年11月8日	移動	8:15	北浦和	JR	
		9:44 10:00	牛久		
		10:19	農林団地中央	関東バス	
	①農業・食品産業技術総合研究機構	10:30～ 13:30	「新しい米」に関するヒアリング		
	移動	14:36	農林団地中央	関東バス	
14:58 15:09		牛久	JR		
16:31		北浦和			
令和4年11月9日	（16:00からイタリアとのオンライン交流会）				
令和4年11月10日	移動	9:12	北浦和	JR	
		9:34 9:39	王子		
		9:59	永田町	東京メトロ	
	②議員会館	10:20～ 10:50	国産インディカ米に関するディスカッション （小野田紀美参議院議員）		
	③農林水産省	16:00～ 17:30	インディカ米の国産化プロジェクトチームとの打ち合わせ （真庭市の生産者との連携等）		
移動	18:04	霞ヶ関	東京メトロ		
	18:09 18:14	東京	JR		
	18:48	北浦和			
令和4年11月11日	移動日	8:26	北浦和	JR	
		9:09 9:12	浜松町		
		9:37	羽田空港第2ターミナル	東京モノレール	
		10:25	羽田空港	ANA	
		11:45	岡山空港（※空港→真庭は自家用車）		
※宿泊 さいたま市浦和区北浦和5-3-3 A-812（留守宅） 080-5006-8389					

北浦和→農林団地中央/関東鉄道バス 2022年11月08日(火)10:20到着

08:15発→10:19着 2時間4分(乗車1時間46分) 乗換:2回 79.3km

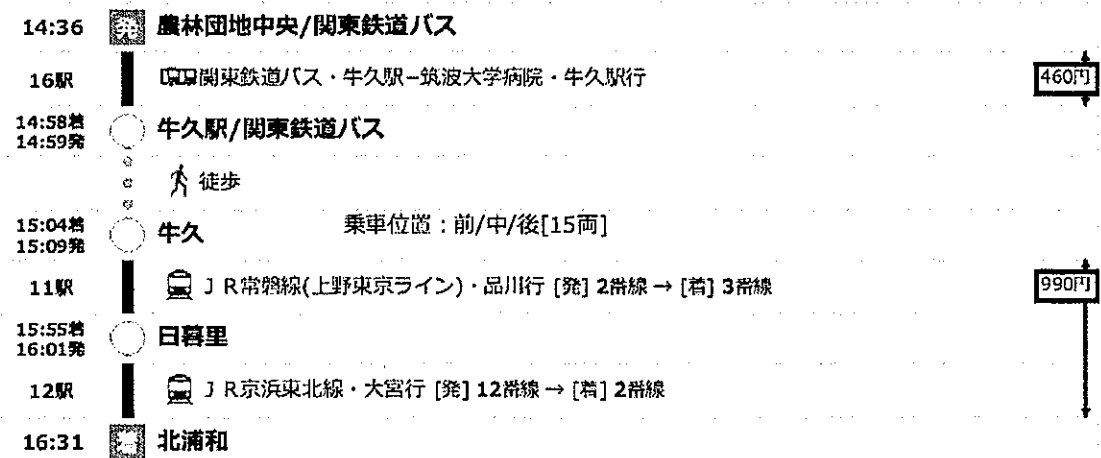
現金優先:1,450円 定期券 通勤:1か月 53,070円 / 3か月 151,270円 / 6か月 286,620円



農林団地中央/関東鉄道バス→北浦和 2022年11月08日(火)14:00出発

14:36発→16:31着 1時間55分(乗車1時間38分) 乗換:2回 79.3km

現金優先:1,450円 定期券 通勤:1か月 53,070円 / 3か月 151,270円 / 6か月 286,620円



北浦和→永田町 2022年11月10日(木)10:00到着

09:12発→09:59着 47分(乗車42分) 乗換:1回 26.9km

現金優先: 510円 定期券 通勤: 1か月 17,180円 / 3か月 48,980円 / 6か月 87,250円

09:12	北浦和	乗車位置: 後[10両]	
8駅	J R 京浜東北・根岸線・大船行 [発] 1番線 → [着] 2番線		310円
09:34着 09:39発	王子		
9駅	東京メトロ南北線急行・日吉行 [発] 2番線 → [着] 6番線		200円
09:59	永田町		

霞ヶ関(東京都)→北浦和 2022年11月10日(木)18:00出発

18:04発→18:48着 44分(乗車35分) 乗換:2回 28.1km

現金優先: 650円 定期券 通勤: 1か月 20,510円 / 3か月 58,480円 / 6か月 103,680円

18:04	霞ヶ関(東京都)	乗車位置: 前/中/後[6両]	
2駅	東京メトロ丸ノ内線・池袋行 [発] 2番線 → [着] 2番線		170円
18:09着 18:14発	東京	乗車位置: 前/中/後[15両]	
4駅	J R 上野東京ライン・籠原行 [発] 7番線 → [着] 4番線		480円
18:41着 18:45発	浦和		
	J R 京浜東北・根岸線・大宮行 [発] 2番線 → [着] 2番線		
18:48	北浦和		



報 告 書



令和4年11月14日

真庭市議会議長 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 吉原 啓介

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・~~研修会~~・~~要請陳情活動~~をいたしましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 日時

- ①令和4年11月8日 10時30分～12時
- ②令和4年11月10日 10時20分～11時
- ③令和4年11月10日 16時～17時

2. 場所

- ①農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）※茨城県つくば市
- ②参議院議員会館（小野田紀美議員）
- ③農林水産省

3. 出席者

- ①相手方担当者：農研機構 オーダーメイド育種基盤グループ
グループ長/竹内善信氏 上級研究員/松下景氏
当方出席者：吉原
- ②相手方担当者：政策秘書/山口栄利香氏 事務局秘書/宇野澤美貴子氏
※小野田議員は急遽入った委員会のため欠席
当方出席者：吉原、落合振興局/中島一郎
- ③相手方担当者：農林水産省政策オープンラボ
伊藤直樹氏 三浦寧音氏
当方出席者：吉原、落合振興局/中島一郎

4. 用件

- ①「新しい米」に関するヒアリング
- ②国産インディカ米に関するディスカッション
- ③インディカ米の国産化プロジェクトチームとの打ち合わせ
(真庭市の生産者との連携等)

5. 概要

- ①国産インディカ米の動向と栽培ノウハウなどに関するヒアリングを行った。

〔先方の回答要旨〕

サリークイーン、プリンセスサリーともに20年以上前に作出した品種ですすでに品種登録期間は終了している。

長い間ほぼ陽の目を見ることがなかった品種なので、機構でも系統維持のための種子保存はしているものの、純度は保証できない。

農林水産省のオープンラボで取り上げられた影響もあるのか、今年に入って急に問い合わせが増えているが、作出当時の担当者もすでにおらず、また栽培暦等追加の検証もしていないので正直なところ栽培ノウハウなどは全く不明な状況。

品種系統的には開花～登熟までの期間の積算温度が重要になると思われるので、ある程度早めの本田移植が望ましいのでは、という推測ができるくらい。

種籾は、要望があれば研究用として1kg程度なら提供可能。

- ②落合エリアの地域振興事業として、国産インディカ米ブランド化事業推進する予定であることの情報提供と、今後の支援要請を行った。

〔説明・要請の概要〕

真庭市（落合振興局）では、農林水産省の部門間横断の若手グループによる政策オープンラボとも連携し、来年度の地域振興事業として国産インディカ米「プリンセスサリー」の増産・ブランド化に向け、地域の複数の農事組合法人等による「生産協議会」を立ち上げる予定。

利用可能な補助・助成にかかる制度整備と情報提供、及び必要に応じて農林水産省の同グループにおけるオープンラボの活動支援をお願いした。

- ③政策オープンラボとの連携の進め方等に係る意見交換を行った。

〔落合振興局から〕

プリンセスサリー生産協議会の立ち上げと、今後の生産・技術普及・販売活動に係る構想を説明。

〔農林水産省オープンラボ側から〕

政策オープンラボの採取的な目的としては、国産インディカ米の海外への輸出。

栽培ノウハウの確立に向け、真庭における栽培データの検証や情報提供・

共有をお願いしたい。

もちろん、国内での販路の開拓も必要と考えているので、地域商社機能の整備等、マーケティング活動に向けた動きや顧客ニーズ等の情報があれば共有させてほしい。

また、プリンセスサリーの活用方法については、そのまま食用とするほか、米粉等への加工・製品化もラボのテーマとしている。

農林水産省では、米粉の活用に向けた事業支援のための補正予算をあげており、本会議への承認はまだだが、利用可能であればぜひ検討してほしい。

今年末から来年年明けに、インドと香港で、試食会等も開催する予定。

試食販売に向けた少量パックの作成・提供等に関しても協力をお願いしたい。

6. 所感

来年度以降、落合エリアの複数の農事組合法人が連携して、プリンセスサリーの生産・販売活動を行うための協議会を立ち上げるのに伴い、同種の栽培ノウハウや販路確保に向けた情報収集を行うことが今回の調査の目的。

ここ 1~2 年の間に急に注目され始めた品種であり、同種の生産拡大・海外輸出の可能性摸索は、農林水産省の若手グループによる政策オープンラボにおいて昨年から取り組んでいるプロジェクトである。

国と真庭市・生産事業者の連携事業、さらに真庭市における今後の米生産活動継続を図る施策として各方面に提案できるよう、今後も情報収集および研究を継続していきたい。

以 上

